

科目	医療オペレーション・マネジメント論	担当	北野 達也	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

近年、医療を取り巻く内外環境はめまぐるしく変化しており、病院の維持運営のため医療提供体制の再構築を余儀なくされている。継続的な院内医療管理体制確立のための組織づくり、医療専門職などのキャリア・パス、組織管理、人的資源管理、資産運用などについて理解を深め、スタッフ一人一人が病院管理者や幹部職員となるべく知識と実践力を身につけ、各々が具体的な方策を提案できるようにならなければならない。これらを実践し、患者安全・医療の質の向上に寄与できるオペレーション・リーダーの人材育成が急務である。この講義では、医療現場における人的資源管理、継続的な組織管理体制の確保、医療の質・安全管理体制再構築のための新たな実践手法を学ぶ。

【履修注意】

携帯電話電源切又はマナーモード、飲食禁、講義中入退室禁、10回以上出席を条件とする。
※「医療オペレーション・マネジメント論」は医療マネジメントコース必修科目である。

【評価方法】

①期末テストによる評価:60%、②授業参加(積極的な授業参加、討論、発言、出席状況、レポートなど):40%

【試験について】

筆記試験を行う。

再試験対象者の条件:総合(期末テスト及び授業参加・レポート等)による評価が60点未満の学生
※但し、総合による評価が40点未満の学生は不合格とし、再試験を実施しない。

【予習・復習】

各回授業内容に応じ、授業前予習(専門用語、関連文献等の検索)、授業後の復習として、学習内容についてまとめ、国内外関連文献検索等によりさらに知識を深めること。※1コマ当たり90分を目安に予習・復習を行うこと。

【教科書】

購入教科書なし

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

1	Introduction	医療オペレーション・マネジメントとは?定義、Medical Operation Managementの目的
2	オペレーション・マネジメント	オペレーション・マネジメントの基本、構造、戦略的マネジメント
3	医療オペレーション・マネジメント	臨床現場におけるオペレーション・マネジメントの可能性、方法論
4	組織目標達成活動のマネジメント	組織目標達成活動について、成功のポイント、実施計画立案
5	業務集団づくりのマネジメント	プロフェッショナリズム、医療倫理、業務集団づくり、協同行動
6	人間集団づくりのマネジメント	判断基準の明確化、情報・解決課題の共有化、人間集団づくり
7	組織における問題解決のあり方	組織体制の現状把握、問題提起、改善策提案、実行、再評価
8	中間まとめ	1~7まとめ(レポート)
9	問題解決策の立案	解決手法、要因分析、拡大・発散思考、集中・収束思考、評価:GW
10	問題解決実行計画	情報共有のための実行計画の可視化、PERT、タイムスケジュール
11	組織的問題解決の進め方	オペレーション・リーダーの役割、共通認識、APDEAサイクル活用
12	人間関係力の強化	目的・価値観の共有、医療者の必要条件(受容・共感・臨床能力)
13	信頼関係成立のプロセス	接触、外観観察、内面観察、態度や言葉遣いの改善、受容、共感
14	医療コミュニケーションと人間関係	阻害要因排除、患者-医療者間のパートナー・シップの確立、信頼
15	対話促進・説得力・交渉力	組織コミットメント、メディアーション、Cooperation、成功のプロセス
16	期末試験	15コマの復習・確認・まとめ